

## 4. 学部における全学的観点からみた回答の傾向

### (1) 2011（平成 23）年度の全体的傾向

2011（平成 23）年度授業評価アンケート集計結果を全学的に分析した結果として、以下の点をあげることができる。

1) 「授業のテーマの明確さ」について、本学の学生の 6 割以上が「そう思う」と答えており、「どちらかと言えばそう思う」を加えると、95.0% の学生が授業が明確だったと答えた。また 4 点満点における平均値も 3.6 であったことから、授業のテーマの明確さは高く評価されていると言える。

2) 「教員の授業への熱意」についても、93.9% の学生が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と答えた。また 4 点満点における平均値も 3.5 であったことから、教員の授業への熱意は高く評価されていると言える。

3) 「教員から要求された自主学習をしたか」については、「どちらかと言えばそう思わない」あるいは「そう思わない」と答えた学生が、18.7% もいることから、約 5 分の 1 もの学生が、教員から要求された自主学習をしないで授業に出ていることが、明らかになった。

4) 「シラバスの活用度」や「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」という項目に関する返答として、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」と答えた学生が、それぞれ、28.2%（シラバスを活用していない割合）、11.6%（授業中に意欲的・積極的でないと自ら認めた割合）もいた。これらの結果から、本学には、主体性を持たずに、受け身の態度で授業に出ている学生が、一定数、存在していると言える。

### (2) 2011（平成 23）年度アンケート項目別全学的回答傾向（大学）

次に、2011（平成 23）年度のそれぞれの質問項目について、年度の集計結果から、全学的回答傾向をまとめて以下に報告する。

#### 1) 教員（授業）について

##### ①授業のテーマは、はっきりしていた

全学（大学）の平均は 3.6 であった。この項目は、「英語英文学科」が 3.7 と最も高く、「人間文化学科」「生活福祉文化学部」「その他の資格科目」が 3.6 であったが、「共通教育科目」と「心理学部」が 3.5 と、他と比べて低かった。

##### ②授業の内容を理解できた

全学（大学）の平均は 3.3 であった。この項目で一番高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、一番低かったのは「共通教育科目」の 3.2 であった。





I・4・1 平成 21 年度～平成 23 年度の平均値比較

項目 番号	平成 21 年度 平均値	平成 22 年度 平均値	平成 23 年度 平均値	過去 3 年間に共通する傾向
①	3.5	3.6	3.6	「共通教育」の点数が低い
②	3.3	3.3	3.3	「英語英文学科」の点数が高い
③	3.3	3.3	3.4	「共通教育」の点数が低い
④	3.2	3.3	3.3	「共通教育」の点数が低い
⑤	3.3	3.3	3.3	「共通教育」の点数が低い
⑥	3.4	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高い
⑦	3.3	3.3	3.3	「英語英文学科」の点数が高い
⑧	3.4	3.5	3.5	「共通教育」の点数が低い
⑨	3.3	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高い
⑩	3.4	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高く、「共通教育」の点数が低い
⑪	3.5	3.5	3.5	「英語英文学科」の点数が高い
⑫	3.3	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高い
⑬	3.3	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高く、「共通教育」の点数が低い
⑭	2.9	3.0	3.0	「心理学部」の点数が低い
⑮	3.2	3.3	3.3	「英語英文学科」の点数が高い
⑯	—	3.1	3.2	「英語英文学科」の点数が高い
⑰	3.2	3.1	3.1	「英語英文学科」の点数が低い

文責：吉田 智子（人間文化学科 教授）